

学生の1日の様子

留学生活が開始してから約1ヵ月半が経ち、学生たちはオーストラリアでの学校生活に慣れてきたようです。今号では学校での1日の様子をご紹介します。

登校時

朝、学校に到着した学生はまずGCAオフィス前に掲示してある連絡事項を確認し、タイムカードを押します。授業が始まるまでの時間を利用してオフィス前で勉強をする学生もいます。



↑ 毎朝掲示板を確認します。

各自タイムカードをタイムレコーダーに挿入します。

↑ 自習をする学生たち

授業風景

全クラス週4日、8時半～14時に授業が行われます。



↑ 授業中の様子



↑ 休憩時間



↑ プレゼンテーションをする学生たち

モーニングティ & ランチ

通常15分の休憩時間、および30分間のランチタイムがあります。学生たちは、食堂や外の広場で雑談をしながら食事をしています。



放課後

GCAオフィスでSSOに相談したり、キャンパス内のジムや校庭で運動したりしています。

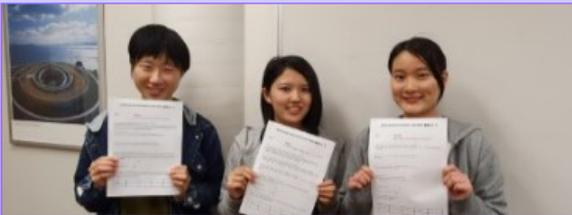


Language Exchange

GCAでは毎年マッコーリ大学とシドニー工科大学で日本語を勉強している学生からランゲージエクスチェンジパートナーを募集し、学生たちに紹介しています。ランゲージエクスチェンジとは、違う言語を話す人同士が互いの言語を教え合う学習方法です。英語学習だけでなく、現地での友人作りに役立てて欲しいと願っています。



希望者多数のため、ジャンケンで決めました。



ランゲージエクスチェンジパートナーが決まった学生たちは、パートナーと直接連絡を取り合って会う場所や日時を決めます。

Excursion

TELCではExcursionと呼ばれる課外授業に出かける機会があります。セッション4では、複数のクラスが合同でフェリーに乗ってタロンガ動物園に行きました。



12期生便り



岩淵 歩優美
宮城県泉高等学校
(宮城県)

親愛なる家族、友人の皆様は元気ですか。私はいつも通りです。今のところ特に困ったことは無く、恵まれた環境で楽しく過ごしています。渡航してから、たくさんの素敵な人達と知り合いました。毎日違った価値観や思想、感覚に触れ、新しい事を吸収しています。このように海を跨いだ日本の外にはいつも未知の世界が広がっていて、ワクワクでたまりません。さて、先日進学予定の学校を見学するため、急遽思い立ちメルボルンに行って参りました。日帰りの弾

丸旅行であったため、あまり多くの場所に行けなかったのですが、やはり世界で最も住みやすい街なだけあって、彼方此方彷徨いながらも、常にどこか落ち着いた、しかし文化的で活気に満ちた、中世のヨーロッパ的な雰囲気を感じました。旅の目的地である学校のコース内容や施設は自分が想像していた以上に良く、今後数年は生活に問題はなさそうです。私が今ここに居る理由は、ホスピタリティを学ぶためです。いえ特に強い想い入れなど無く、外国が好きで、行く行くは家業を継ぐ責任があるため、それらを擦り合わせたら此処に辿り着いたということです。これからも知識を渴望する者として勉学に励みます。



大平 美波
県立
大田原女子高等学校
(栃木県)

日本を発ってから、生活環境が大きく変化しました。言葉はもちろん、住む場所も周囲の人も何もかも変化があったとはいえ、オーストラリアは多民族、多文化国家のため人々が異なる文化や慣習に寛容なので、暮らしやすいです。日本では、日本人と外国人というくくりで考えがちですが、オーストラリアでは国籍以前にそれぞれが1人の人間だという感覚で生活しています。ふと、これが本来あるべき姿なのかなと思いました。異なる

文化や慣習を持つ人々と生活すると、お互いの文化や慣習の優劣をつけてしまうことがあります。どちらが優れている劣っているということではなく、単純に「異なっている」というだけなので、理解して受け入れていくことが大事だと身をもって感じる事ができました。オーストラリアでの生活を通じて、今まで気付かなかったことに気付ける喜びを日々感じています。当たり前のことながら時間は待ってくれないので、今の状況に甘んじず一分一秒を大切に精進していきたいです。日本に帰国する頃にはひと回りもふた回りも成長した姿を協力してくれている両親に見せられたらと思います。